

編集後記

- < * > ややもするとハード面の開発や既存の試薬の利用に偏重しがちであるが、F I A に適合した高機能性試薬の開発、それが勝負のカギである。大倉先生のご提言を< 巻頭言 > とした。
- < * > 予約していた外国からの< 指標 > への寄稿が籍切に間に合わず残念。
- < * > 溶媒抽出への関心度は非常に高いが、文献に準じて初心者が試みても、失敗する例が多い。どこかにミソやコツがあるはずである。そのノウハウを本水先生にわかりやすく解説していただいた。
- < * > 研究報告は活況です。ベネズエラの Burguera 先生ご夫妻の投稿もいただいで。
- < * > トピックス欄への投稿がなく困っています。とりあえず編集子がアナウメを。ご投稿を歓迎します。
- < * > 次号から編集幹事が交代します。すべてのご寄稿の宛先は

〒812 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学工学部応用化学教室
電話 092-641-1101, Ex. 5623

今任 稔彦

- < * > よい年をお迎え下さい。そしてF I A 講演会（お知らせ欄）でお会いしましょう。
(与座 範政)

< 追記 > オランダの van der Linden 氏が中心になり、F I A 関連の I U P A C 用語案を作成中で、アンケート資料がとどいています。その1例を次頁に示します。資料をご希望の方はご連絡下さい（与座）。